

施策実施状況の評価（平成30年度）

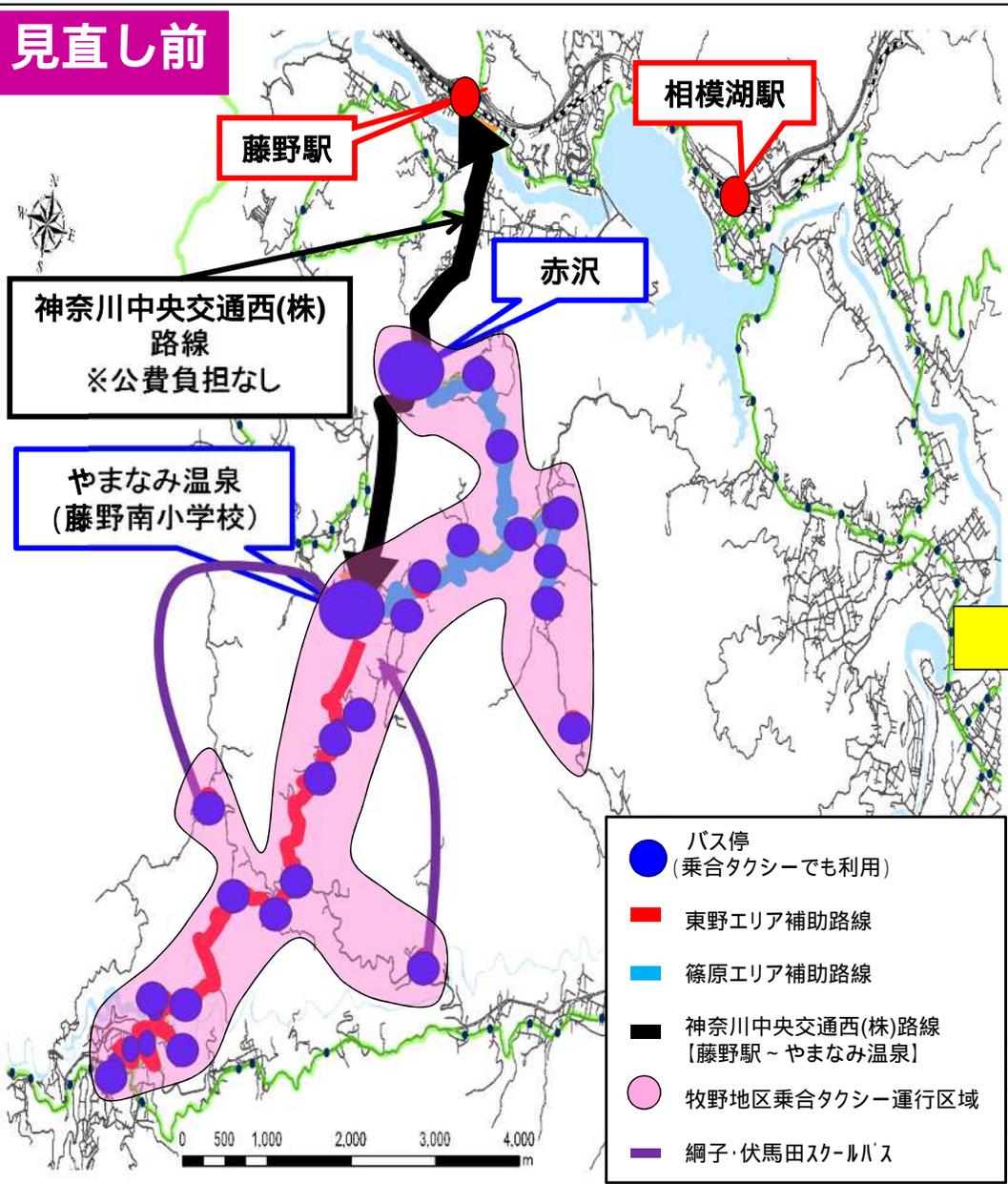
【施策2】 生活交通維持確保路線の見直し 評価案

<p>【施策2】 生活交通維持確保路線 の見直し</p>	<p>実施状況の 検証</p>	<p>指標</p>	<p>見直し路線数</p>
		<p>実施状況</p>	<p>3路線</p>
	<p>モニタリング 指標の変化</p>	<p>指標</p>	<p>見直し路線収支比率</p>
		<p>基準値</p>	<p>5.8%（見直し路線の平成22年度実績）</p>
		<p>実績値</p>	<p> やまなみ温泉～東野線 やまなみ温泉～篠原線 やまなみ温泉～篠原～赤沢線 </p> <p>5.2%</p> <p>生活交通維持確保路線における「見直し検討基準」に該当していたため、平成31年3月31日の運行を最後に3路線を廃止し平成31年4月からデマンド交通に転換。</p> <p>見直し検討基準 「ピーク時間帯の1便あたり利用者数が10人未満」または「運賃収入が運行経費の27.5%未満」</p>
	<p>評価(案)</p>	<p>見直し検討基準に該当していた路線のうち、3路線を廃止し新たな交通モードであるデマンド交通に転換している。</p> <p>見直し後も運行実績等を踏まえ、効率的な運行を目指して取り組むことを期待する。</p>	

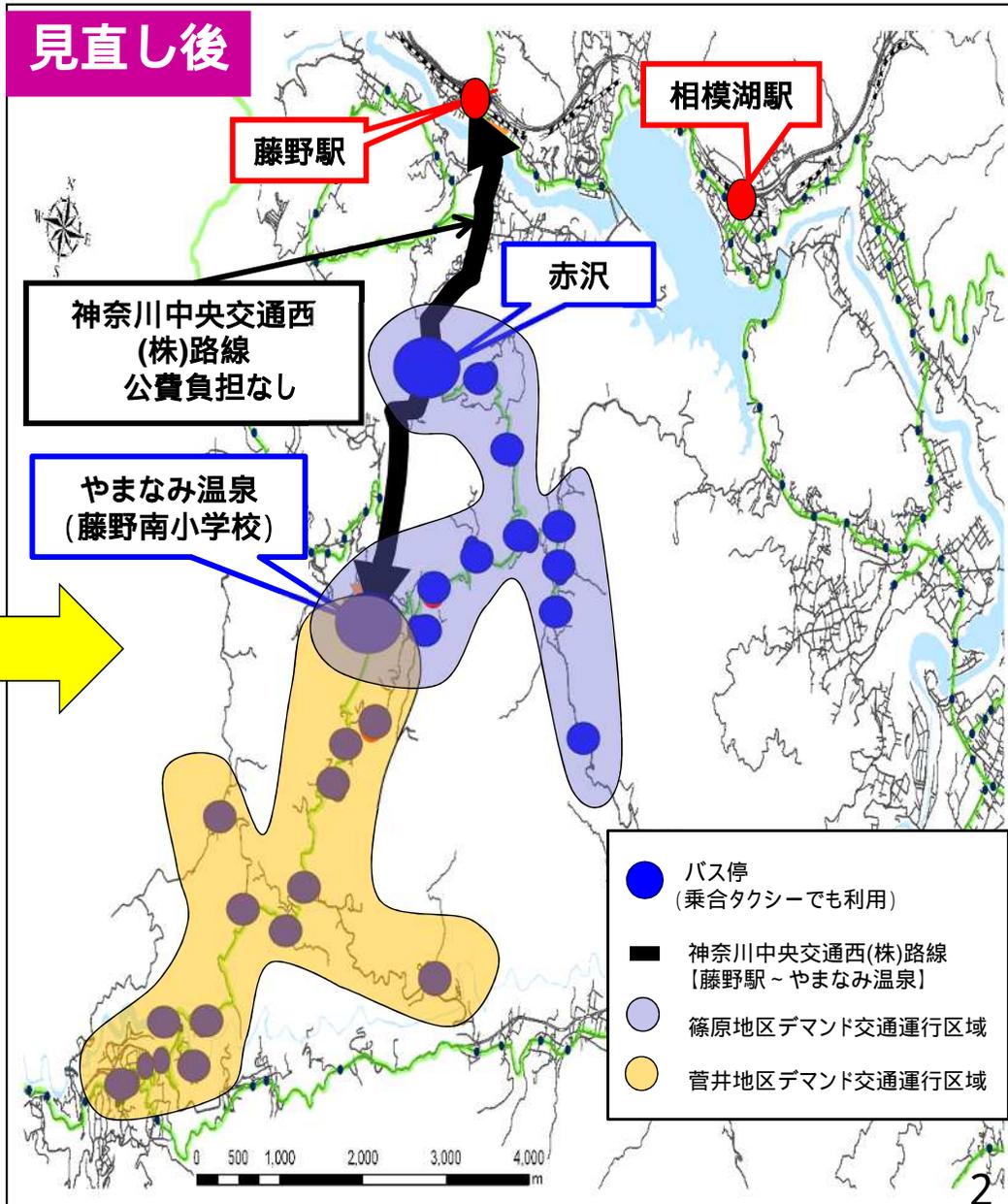
【施策2】 生活交通維持確保路線の見直し 参考資料

路線バス、乗合タクシー、スクールバスなど複数の交通モードが混在し重複している非効率な状態を改善するため、やまなみ温泉を起点とする3路線を廃止し、菅井地区、篠原地区デマンド交通に転換することで、路線重複等を解消した。なお、菅井地区デマンド交通にはスクールバスとして定時定路線便を設けている。

見直し前



見直し後



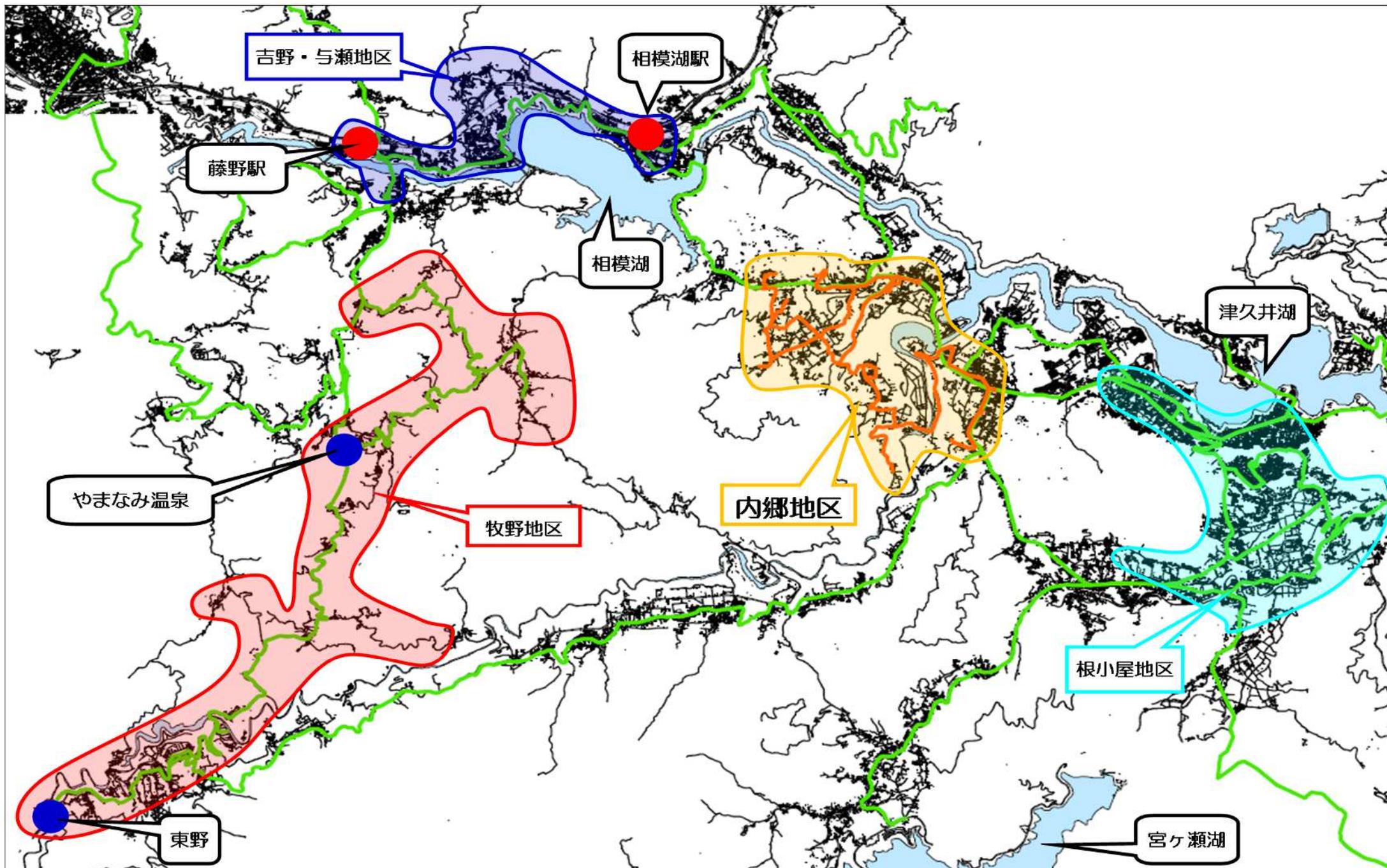
【施策3】 コミュニティバス導入スキームの運用 評価案

【施策3】 コミュニティ バス導入 スキーム の運用	実施状況の 検証	指標	運用・検討箇所数
		実施状況	2地区
	モニタリング 指標の変化	指標	運行路線利用者数
		基準値	
		実績値	運用・検討箇所：2地区 ・大沢地区：98,939人(対前年2,953人増) ・大野北地区：58,728人(対前年1,777人増) 合計利用者157,667人(対前年4,730人増)
	評価(案)	運行中の2路線において、地域が主体となり利用促進に取り組んでいる。 大沢地区、大野北地区ともに利用者は増加しているが、大野北地区においては、運行継続条件のうち収支比率が基準を下回っているため、さらなる利用促進に取り組む必要がある。	

【施策4】 乗合タクシー導入スキームの運用 評価案

<p>【施策4】 乗合タクシー 導入スキームの運用</p>	<p>実施状況の 検証</p>	<p>指標</p>	<p>運用・検討箇所数</p>
		<p>実施状況</p>	<p>4地区</p>
	<p>モニタリング 指標の変化</p>	<p>指標</p>	<p>運行路線利用者数</p>
		<p>基準値</p>	
		<p>実績値</p>	<p>運用・検討箇所:4地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内郷地区:3,964人(対前年39人増) ・根小屋地区:7,884人(対前年811人減) ・吉野・与瀬地区:3,287人(対前年38人増) ・牧野地区:994人(対前年171人減) <p>合計利用者16,129人(対前年905人減)</p>
	<p>評価(案)</p>	<p>内郷地区、吉野・与瀬地区は利用人数が微増、根小屋地区は大幅に減少しており、各地域において新規利用者の獲得等を目指し、更なる利用促進活動を行うことが望ましい。</p> <p>牧野地区では、運行継続条件を満たすことが出来なかったことから、平成31年4月よりデマンド交通の実証運行に転換しており、運行実績等を踏まえ、効率的な運行を目指し取り組むことを期待する。</p>	

乗合タクシー運行区域図



【施策24】 啓発講座等の実施 評価案

【施策24】 啓発講座等 の実施	実施状況の 検証	指標	啓発活動実施回数
		実施状況	1回 バス事業者と協力し、大野北地区において、 児童及びその保護者を対象としたバス乗り 方教室を開催した(平成30年9月9日)
	モニタリング 指標の変化	指標	利用方法、運行意義の理解度
		基準値	アンケートの実施
		実績値	乗り方教室参加者(57人)を対象として、 1家族1票(36票)回収 役に立った 82.3% 今までより利用する 17.7%
	評価(案)	<p>乗り方教室等の実施により、本事業が公共交通を利用 する意識の啓発につながったと考えられる。</p> <p>他地区においても施策を展開する等、より一層の啓発 活動に取り組むことが望ましい。</p>	

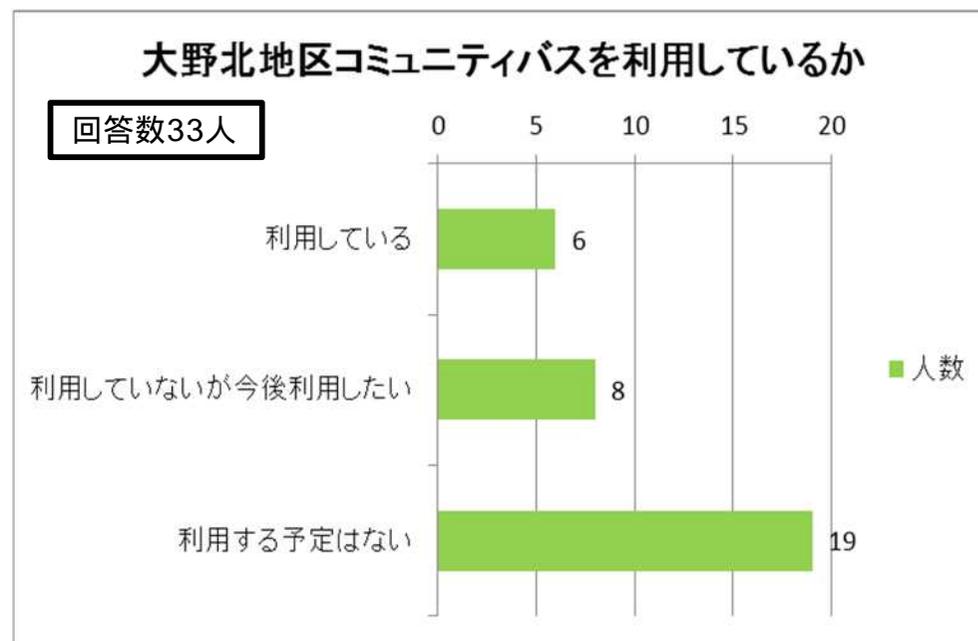
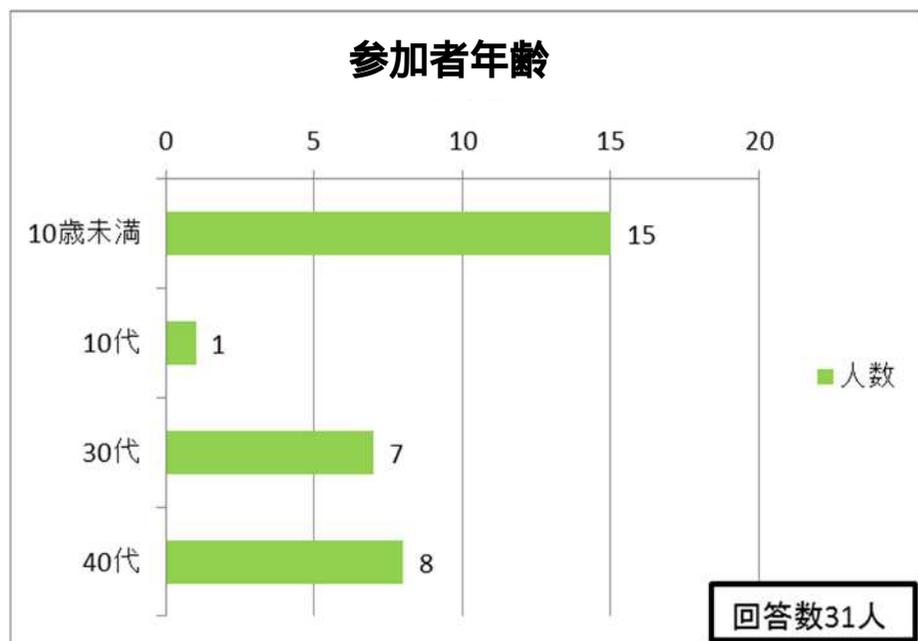
【施策24】 啓発講座等の実施 参考資料

平成30年9月9日 バス乗り方教室の実施 (yフェスティバルにて実施)



路線バスの乗り方や車内マナーに関する説明を通じて、路線バスを身近に感じてもらうとともに、公共交通の役割・必要性について考えてもらうことを目的とした、モビリティ・マネジメント推進事業の一環として実施した。(57人の方が参加)

アンケート結果 一例



【施策28】 ノンステップバスの導入 評価案

【施策28】 ノンステップ バスの導入	実施状況の 検証	指標	ノンステップバスの導入の有無
		実施状況	市内の営業所において、ノンステップバス17台が導入された。
	モニタリング 指標の変化	指標	ノンステップバス導入台数
		基準値	
		実績値	17台導入 平成31年4月1日現在の導入率 101台 / 240台 (42.1%)
	評価(案)	平成30年度は17台のノンステップバスを導入した。 平成28年度に成果指標を見直し、目標導入率を70.0%に上方修正したことから、引き続き計画的に導入促進に取り組むことが望ましい。	

【施策28】 ノンステップバスの導入 参考資料

ノンステップバス … 出入り口の段差を解消して乗降性を高めた低床バス



平成31年4月1日現在の市内各営業所の導入状況

ノンステップバス 101台
 総車両台数 240台
 導入率 42.1%

市内の営業所におけるノンステップバス車両数の推移

時 点	ノンステップバス車両数	全車両数	割合
H25.4.1	40	235	17.0%
H26.4.1	43	237	18.1%
H27.4.1	50	237	21.1%
H28.4.1	62	236	26.3%
H29.4.1	66	238	27.7%
H30.4.1	84	239	35.1%
H31.4.1	101	240	42.1%

成果指標
 目標値(H33年度)を「30%」から「70%」に変更している。